

報道関係者各位

世界 COPD デー推進日本大会

COPD チェックイベント 速報！ ～ 452 名の喫煙歴や肺機能、症状をチェック ～

「COPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease : 慢性閉塞性肺疾患)」の啓発活動を行う世界的な組織 GOLD (Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease) が、世界 COPD デー (11 月 19 日) を機に COPD に関する認知を高めるために、2003 年 11 月 11 日～14 日まで、世界 COPD デー推進日本大会を開催しました。

11 月 14 日のメディアフォーラムに先立ち、11 月 11 日～13 日に行われた JR 東京駅構内メディアコート『Break』での COPD チェックイベントには、予想を大きく上回る 4,680 名の来場がありました。

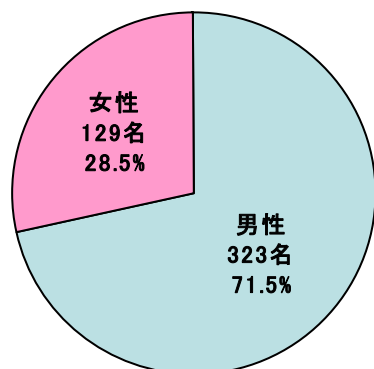
イベントに来場した方の約 1 割にあたる一般 452 名を対象に COPD 早期診断の決め手となる「スパイロメーターによる肺機能チェック」を実施したところ、以下のような結果が得られましたので、ご報告いたします。

<結果概要>

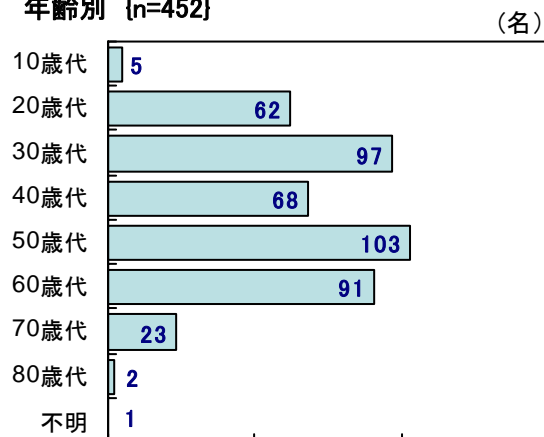
11 月 11 日～13 日の 3 日間で、452 名がスパイロメーターを体験

- 参加者の内訳は、男性 323 名(71.5%)、女性 129 名(28.5%)であった。
- 年齢層は 10 代～80 代と幅広く、20～60 代が 93%と大部分を占めた。

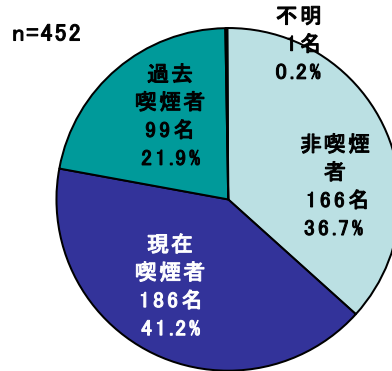
性別 {n=452}



年齢別 {n=452}

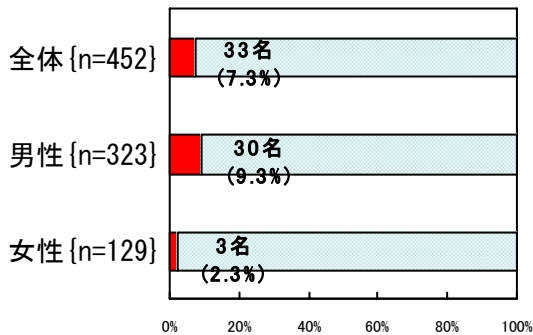


- 参加者の喫煙歴を尋ねたところ、非喫煙者 166/452 名 (36.7%)、現在喫煙者 186/452 名 (41.2%)、過去喫煙者 99/452 名 (21.9%)、無回答 1/452 名 (0.2%) であった。

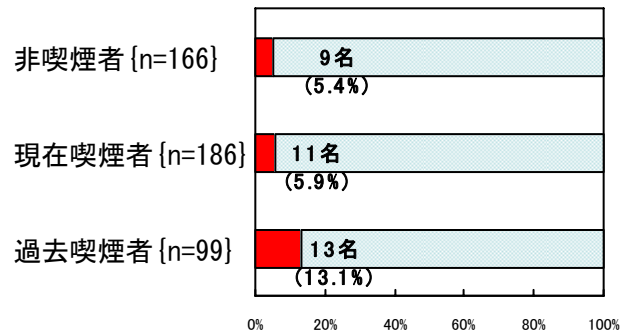


- スパイロメーターで 1 秒率が 70%未満であった人 (COPD など閉塞性換気障害の疑いがある人) は、全体で 33/452 名 (7.3%)、男性 30/323 名 (9.3%)、女性 3/129 名 (2.3%) であった。
- 喫煙歴別にみると、スパイロメーターで 1 秒率が 70%未満であった人は非喫煙者で 9/166 名 (5.4%)、現在喫煙者で 11/186 名 (5.9%)、過去喫煙者で 13/99 名 (13.1%) と、過去喫煙者でその割合が高かった。

1 秒率 70%未満(性別)

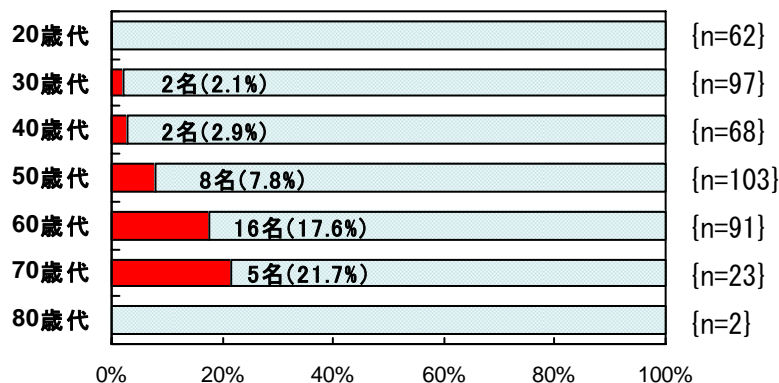


1 秒率 70%未満(喫煙歴別)

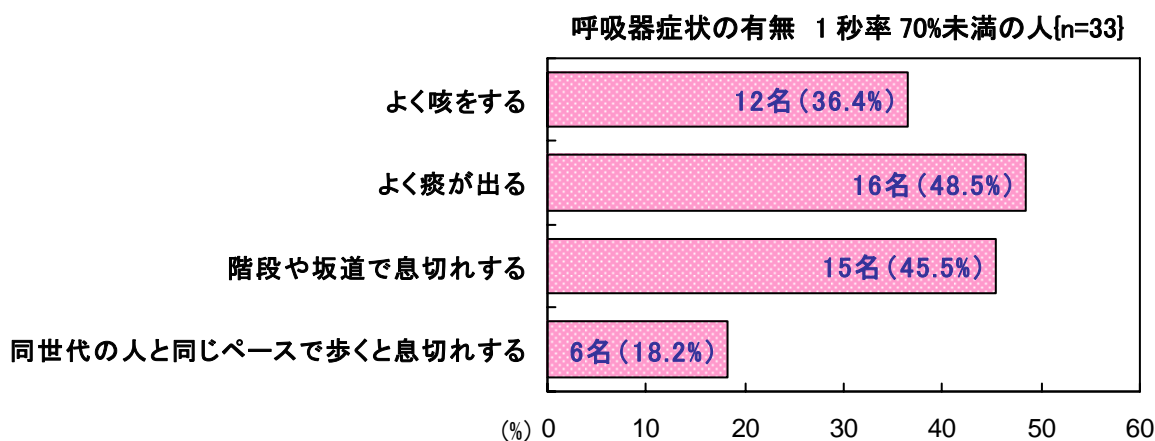
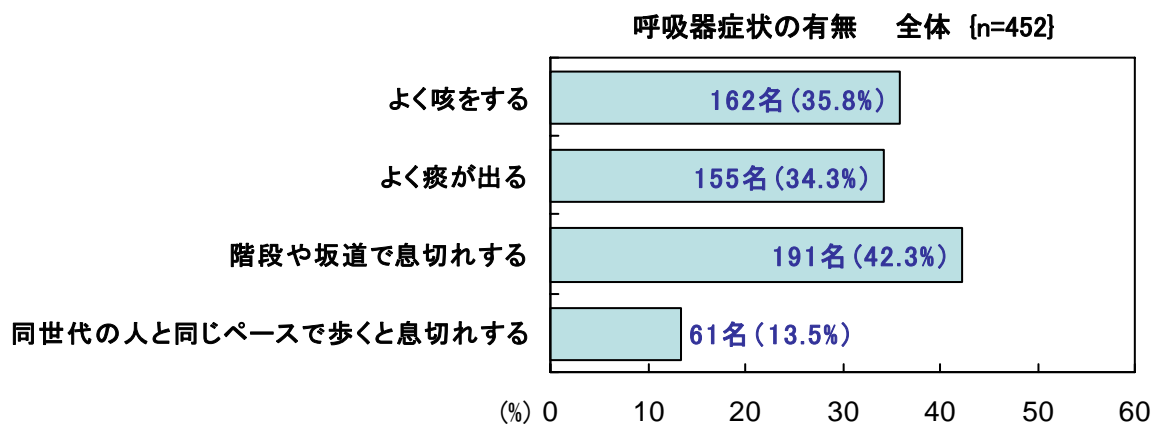


- 1 秒率 70%未満の 33 名を年齢別にみると、年齢が高くなるほどその割合が高かった。

1 秒率 70%未満(年代別)



- 参加者に呼吸器症状の有無を尋ねたところ、「よく咳をする」35.8%、「よく痰が出る」34.3%、「階段や坂道で息切れする」42.3%、「同世代の人と同じペースで歩くと息切れする」13.5%が症状があると答えた。COPD の初期症状であるこれらの症状は、健康な人でも訴えることが多く、スパイロメーターで1秒率70%未満の人に特に割合が高いことはなかった。



＜順天堂大学呼吸器内科 福地教授のコメント＞

私たちが2001年に行った疫学調査の結果では、40歳以上のCOPD有病率が8.5%と推計されましたが、今回、40歳未満の人が約3分の1を占める452名のスパイロメーターで、1秒率70%未満の人が7.3%という結果が出たのは、ほぼ近い数字ではないかと思えます。年齢別に見ても、よく似た結果が得られています。過去喫煙者で1秒率70%未満の人の割合が高かったのは、高齢者に過去喫煙者が多いことと関連しているものと思われる。

また、COPDに特徴的とされる咳、痰、息切れの症状は、一般の方でも多くの方が「症状がある」と答え、1秒率が70%未満の方に特に多いということはありませんでした。症状がなくても、肺機能の低下が進行している可能性があるということで、やはり40歳をすぎたら、年に一度はスパイロメーターで呼吸器の健康チェックを行ってほしいと思います。

今回、結果がよくなかった方が、すべてCOPDというわけではなく、喘息などほかの呼吸器疾患の可能性もありますが、これを機会に、一度医師に相談されるのがよいかと思えます。

以上

☞ COPD(Chronic Obstructive Pulmonary Disease:慢性閉塞性肺疾患)とは

喫煙が主な原因とされる肺の生活習慣病。気管支の炎症や肺の気流閉塞により呼吸困難を起こす慢性の呼吸器疾患で、息切れ、咳、喘鳴、痰の増加が特徴的な症状です。日本では530万人以上の患者がいると推計されていますが、実際に治療を受けているのは約21万人に過ぎず、残り95%は未治療のまま病気を進行させてしまっている可能性があります。高齢化や喫煙開始の低年齢化に伴い、今後患者数が増加すると推定されています。

またWHO(世界保健機関)の調査によると、COPDは2020年に死亡原因の第3位になると予測されており、世界規模での早急な対応が迫られている重篤な疾患の一つです。

☞ GOLD(Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease)とは

COPDの医療水準の向上と啓発活動を行うため、WHOとNHLBI(米国立心肺血液研究所)の呼びかけのもと、日本を含む世界50ヶ国以上の専門家が中心となり発足させた組織。2002年から、毎年11月のある1日を「世界COPDデー」に制定し、COPDの予防、早期発見・早期治療の普及を目的にさまざまな活動を展開しています。今年の世界COPDデーは、「11月19日」です。

☞世界COPDデー推進日本大会(2003年)とは

11月11日～13日の3日間、COPDチェックイベントとして、JR東京駅構内メディアコート内『Break』にて開催されました。一般の方にスパイロメーターを実際に体験し、肺機能のチェックをしていただくことでCOPDの認知を高めようというものです。また、専門医によるトークショーやCOPDに関するポスター・パネルも展示され、冊子も配布されました。

14日のメディアフォーラムでは、基調講演として順天堂大学教授の福地義之助先生に、COPDをめぐる最近の進展についてお話しいただきます。その後のパネルディスカッションでは、医療専門家や行政担当官、患者代表など6名の方々をお迎えして、COPDをめぐる諸問題について討議します。

■ 主催:GOLD (Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease)

■ 後援:東京都、日本医師会、日本呼吸器学会、日本呼吸管理学会

■ 共催:アストラゼネカ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、日研化学株式会社、 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、バイエル薬品株式会社、 ファイザー株式会社、三菱ウェルファーマ株式会社

■ 協力:チェスト株式会社

***** この件に関するお問合せは、下記までお願いします *****

2003年世界COPDデー推進日本大会事務局

株式会社エム・シー・アンド・ピー

本岡/菅原

TEL.03-3597-0170 FAX 03-3597-0171

【スパイロ体験を希望された方への質問票】

あなたの肺機能は？

—スパイロ検査説明書—

① 身長、性別、年齢、喫煙歴やあてはまる症状を記入して検査員のところにお持ちください。

■ 肺機能検査報告書

身長 () cm
性別 (男 ・ 女)
年齢 () 歳
喫煙歴 なし
 現在喫っている
1日()本()年間
 過去に喫っていた
1日()本()年間
禁煙した時期()歳のとき

次のような症状がある
 よく咳(セキ)をする
 よく痰(タン)が出る
 階段や坂道で息切れする
 同世代の人と同じペースで歩くと息切れする

② 検査員の指示にしたがってスパイロ検査を受けてください。

③ 検査結果について

FVC(努力性肺活量):
息を最大限に吸ってから強く吐き出したときの息の最大量。

FEV1.0(1秒量):
息を最大限に吸ってから強く吐き出したとき、最初の1秒間の息の量。

FEV1%(G)(1秒率):
1秒量をFVC(努力性肺活量)で割ったもの。息の吐き出しにくさ(閉塞性障害)の指標となります。1秒率が70%未満の場合、閉塞性障害の可能性がります。

%1秒量:
項目FEV1.0のところの3つ数字のうち、一番右側(%予測値の欄)の数字が%1秒量です。あなたの1秒量が、身長、性別、年齢が同じ健康な人の正常値と比べて、どれくらいかを表すもので、COPD重症度の指標になります。

各項目の「測定値」欄の数字が、あなたの検査結果です。「予測値」は、あなたの身長・性別・年齢から予測される正常値、「%予測値」は、予測正常値に対するあなたの検査結果の割合を%で表わしたものです。

このカードに記載いただいた性別、年齢、喫煙歴、症状の有無について、および検査結果を集計したデータは、参考データとして発表させていただく予定です。個々の記載情報や検査データを公表することはいたしません。よろしくご了解ください。